

めいわ かわら版



うがみ 美帆 美帆

袋井学園 生活支援員

2

017年に新卒で入職し、障がい者支援施設袋井学園で日々の業務に奮闘する鵜飼美帆さん。「人の役に立つ仕事したい」という思いから明和会の門を叩いたものの、仕事の仕方に悩み、一時は休職されていたことも。挫折を経験した鵜飼さんは、どのように立ち直り、仕事を続けてこられたのでしょうか。これまでの歩みを振り返ります。

明和会に入職したきっかけを教えてください。

もともとは大学で保育について学んでいました。そこへ八谷理事長が講師として来校し、講義を受けたことがきっかけです。卒業後に自分が何をしたいのか、迷っていたのですが、「人と関わる仕事がしたい、人の役に立つ仕事をしたい」とはずっと思っていました。

そうした中で八谷理事長と直接お話をさせていただく機会があり、障がい者支援という職種について「こういう仕事もあるよ」と案内していただいたことで、ここで働いてみたいと思ったのです。

できるように心がけていきます。

困難を乗り越え、大きく成長した鵜飼さん。これからも誠心誠意仕事に向き合い、多くのことを吸収していくでしょう。



実際に働いてみて、いかがでしたか。

利用者である障がい者の方の生活支援で、食事や着替え、入浴、排せつなどを担当させていただいています。最初は分からないことばかりで戸惑いの連続でした。大学では保育の環境として障がい児の勉強はしたものの、障がい者の方に関しては知識がほぼなかったものですから。

でも、毎日一緒に過ごしているうちに、「これまで、無意識のうちに線引きをしていたのかもしれない」ということに改めて気付かされました。普通にご飯を食べて、おしゃべりをして、お風呂にも入って。やっぱり私たちと何ら変わらない人たちなんですね。

これまでで特に印象に残っているできごとがありますか。

入職して2年目の夏、仕事の仕方に悩み、1か月のお休みをいただいたことがありました。利用者の高齢化が進む中、認知症になってしまう方が出てきて、自分自身、うまく対応することができなかつたのです。

食事を嫌がる方にどう接すればいい

そこからどのように復帰されたのでしょうか。

いのか、自分が支援することで無理をさせてはいないだろうか……悩んではいたものの当時は仕事を覚えることに精一杯で、周囲に相談してみようという気持ちの余裕もない。1人で抱えこんでしまった結果、ある日突然職場に行けなくなっていました。

休んでいた1か月の間、上司や先輩が本当に親身になって声をかけてくださって。そのときに、利用者の皆さんのことが常に頭にある自分自身にも気がつきました。「〇〇さん、食事や入浴はちゃんとできているかな」というように、毎日生活を共にしていた方々のことが頭に浮かびます。そのたびに「このまま辞めてしまつて本当にいいのか」と自問しましたが、先輩方のひと押しもあり、もう1度戻ってやってみる決心ができました。

復帰後は、自分から進んで先輩にアドバイスを求められるようになりまして、以前よりもスムーズに支援ができていくように感じます。気持ちにも余裕ができて、楽しく働けるようになりました。それは利用者の方々にも伝わっていると思います。以前は何か

仕事を通じて学んだり、成長できているなと感じる部分はありますか。

言われても、その要望を汲み取れないことがありましたが、今は何を求めているかが分かるようになり、より意思の疎通ができるようになりました。

苦手だったことにもチャレンジさせてもらえる機会が多く、それが自身の成長につながっていると感じます。例えば人前に出ることがあまり得意ではなかったのですが、この仕事をしていると、イベントの時などに、みんなの前に立って話をする機会も多くあります。最初のうちはうまくいかなかったこともあったのですが、経験を重ねるうちに苦手意識がやわらいできました。今後は、先輩方のように自分自身も楽しみながら話ができるようになりたいと思っています。

最後に、今後の目標について教えてください。

そのときの感情で利用者に接しない、ということ。人間なので、どうしても感情をコントロールすることが難しい場合もありますが、そこに左右されることなく一貫した支援が

明和苑

明和苑
副苑長

すずき みほこ
鈴木 美保子さん



今回は明和苑に
ついてご紹介します！

事業所の紹介

要介護度3～5の認定を受けられた方で、高齢や病気の後遺症などで介護がないと自力では日常生活が難しい高齢者が希望によって入苑し、家族に代わって24時間体制で介護・生活相談・日常動作訓練等が受けられる施設です。

仕事のやりがい

利用者様やそのご家族の方から、「明和苑に入って本当によかった」という感謝の言葉をいただいたときです。働くことが報われたと感じます。

工夫していること

一番工夫していることは「職員が辞めない」環境づくりです。私たちは、勤続年数に関わらず職員一人ひとりの意見や気持ちを尊重し大切にしています。常に笑顔を保ち、お互い様の気持ちを心がけ、仕事をしています。



独自の取り組み

年2回、職員一人ひとりにヒアリングの時間を設けています。仕事に関する相談だけでなく、家族のこと、不安に感じていることなど、その人の胸の内を話してもらうようにしています。話してもらうことで悩みが共有でき、その人に合った仕事を提案することで、職場に守られている安心感を持ってもらい、仕事に励んでもらっています。

思い出深いエピソード

以前、食事が食べられない胃瘻の方が明和苑に入所され、日に日に元気を取り戻し、食事ができるようになりました。ついには胃瘻チューブが抜けるまで回復され、浜松に住む息子さんの家に戻っていかれた時は嬉しいやら、寂しい気持ちになりました。

今後の目標

老人ホームの利用者様はもちろんのこと、利用者様のご家族にも寄り添っていくことが大切です。利用者様のご家族が老人ホームにいらした時には、気持ちの良い挨拶を心がけ、誠心誠意ご家族の気持ちに向き合っていきたいと考えています。

趣味、休日の過ごし方

ジムで筋トレをすることが好きです。コロナウィルスの影響により現在は通っていませんが、17歳の頃に通いだしてから毎日のようにトレーニングをしていて、体を鍛えることが生活の一部になっています！

入社のきっかけ、志望動機

ちょうど私が就職活動を行っていた時期に祖父が体調を崩したことがきっかけで、介護という職業に興味を持つようになりました。

現在の仕事内容

現場でご利用者の方のトイレ介助や食事介助などを行ない、週に2、3回夜勤をしています。ご利用者の方々とお話するのはとても楽しく、いつも元気をもらっています！

工夫していること

ご利用者の方の家庭の事情などのバックグラウンドを知った上で介助することを念頭に置いています。孫のようなくだけた口調を好まれる方もいれば、しっかりとした敬語を望まれる方もいるので、一人ひとりにあった柔軟な対応をすることが大切だと感じています。

今後の目標

この仕事に就いて10年目になり、年齢を重ねていく中で今まで通りにこなせないことも出てくるかもしれませんが、今後とも試行錯誤していきたいと思っています。プライベートでは1月のベンチプレスの全国大会で4位に入賞しました。来年は全国3位以内に入ってメダルを取ることを目標に頑張ります！



介護職員
よこい まさと
横井 将人さん



スタッフ紹介

今回は明和苑で働く横井さんと金原さんをご紹介します！
お仕事への向き合い方や休日の過ごし方などをお伺いしました。



介護職員
きんばら ひさのり
金原 永典さん

趣味、休日の過ごし方

ウォーキングです。普段から健康に気を使っています。今はコロナの影響で運動不足になりがちなので、家の近所をウォーキングするようにしています。

入社のきっかけ、志望動機

親戚や知り合いが働いていないところで働きたいと考えていたので、介護という職を選びました。また大きい施設であれば安定的に働けると考え、私の地元で大きな介護施設の1つであった「明和苑」に入社を決めました。

現在の仕事内容

ご利用者の方の食事、入浴、排泄など日常生活のお手伝いをすることが主な仕事です。日によって、また担当する利用者の方によ

て求められる仕事内容は多少異なります。仕事をしていて一番やりがいを感じるのは、ご利用者の方やそのご家族にお礼を言われた時です。

工夫していること

わかりやすく話すことです。私の入社当時は認知症の利用者の方が多く、私が伝えたいことがうまく伝わらないことが多々ありました。その時の経験を踏まえて、相手に通じる話し方を常に意識しています。

今後の目標

利用者の方やそのご家族に、安心して多くのことを任せていただける介護士を目指しています。頼られる人となることを目標に、信頼関係を築いていきたいと思っています。